

「LINEで街情報共有」を共通ツールとした、フェーズフリーな商品・サービスの普及とレジリエントなまちづくりに寄与する「大阪モデル」アイデア例

ー フェーズフリーな商品・サービス一覧（例） ー

	ジャンル	商品・サービス	平時サービス	災害時サービス
①	共通	LINEで街情報共有 ＜共通ツール＞	身近なまち（人・店・企業・行政）の情報提供	避難所案内、安否確認、行政防災アプリへのリンク
②	共通	防災パートナー	防災知識の啓発・地域の防災活動	避難所運営・地域への情報伝達
③	食	災害食	ローリングストックの実施	日本災害食・おもいやり災害食の提供
④	食	キッチンカー支援	ランチ・イベント時の美味しい食の提供	機動的な被災地での美味しい食の提供
⑤	食	温蔵自販機	日本初温蔵管理による美味しい食の提供	キッチンカーとの連携で、待たずに温かい食の提供を実現
⑥	人	ボランティア派遣	簡便・確実な事前登録	迅速で安心安全な活動推進
⑦	機材	建機等機材	機材のレンタル	災害支援レンタル機材の提供
⑧	電力	ワイヤレス電力伝送技術	電源に縛られない自由な世界の実現	避難所での携帯充電問題解消（コンセント一つで複数充電可能）
⑨	物流	ドローンの開発・運用	インフラ点検サービス	機動的な被災地へ物資供給
⑩	医療	スマートメディカルステーション （オンライン診療支援 PF）	僻地診療所として活用	医療コンテナとして救急・高度医療に活用

「LINEで街情報共有」を地域の共通ツールとし、「フェーズフリーな商品・サービス」の普及により、平時は「いつもの」商品・サービスを利用し、災害時には同商品・サービスを「もしも」の時用として（も）利用することができ、レジリエントなまちづくりが実現できる。